

## 平成28年度 第1回 北九州市公共事業評価に関する検討会議

日 時：平成28年7月15日（金）

10：30～12：00

場 所：北九州市役所本庁舎

5階 プレゼンテーションルーム

### 1 一般廃棄物処理施設整備事業について

～事業課より資料2に基づき説明～

### 2 内部評価結果について

～事務局より資料4に基づき説明～

### 3 質疑応答について

（座 長）

ありがとうございました。

ここでマスコミの方をお願いしたいと思います。ここから先は検討会議開催の報道発表資料にもお願いしておりましたが、カメラ、写真等の撮影はご遠慮いただきたいと思えます。円滑に会議を進行するためですので、ご協力よろしくお願いたします。

それでは委員の皆様から、ただいまの事業課及び事務局からの説明につきましてご意見、ご質問等があればお願いしたいと思います。

（構成員）

説明用資料（パワーポイント）の18ページで、工場の完成は平成37年になっていて、現状の施設の寿命が平成36年。これは1年ギャップがあるというふうに見えますが。それともちょうど良いのですか。

（事業課）

工場は平成36年が寿命という事ですので、それまでに建てて平成37年から竣工という事で、ちょうどマッチします。

（構成員）

平成37年には動くという事ですか。ギャップはないという事でよろしいですね。

（事業課）

本来、寿命を30年としますと、平成3年稼働ですので、もっと早い時期に寿命がきますが、計画に合わせる形で平成36年を寿命という事になっています。

（構成員）

もう1つ。コストの所で、現状の施設を壊すお金は入っていますか。それも含めて建設

費という事になっているのでしょうか。

**(事業課)**

入っております。現在の工場のスクラップ費用も入ったイニシャルコストとしています。

**(構成員)**

なぜお尋ねするのかというと、メンテナンスや、基幹改良や、オーバーホールなどにお金がかかる、という意味においてはライフサイクルコストで評価しなければいけない部分もあるのではないかと考えているからです。今は、建設費という形になっていますが、これからまた基本設計とか、事業評価2とかあると思いますが、どういうシステムになっているのか伺います。事業費が建設費に関わる所だけになっていて、ライフサイクルコストの概念に合っていないような気がします。そういう観点での評価はされるのかどうか。

**(事業課)**

経済性の比較のところを書いております支出がございます。

**(構成員)**

それは平成36年までだから、それからまた運用するとコストが色々とかかかっていくわけです。次の寿命が来て壊すまでのコストというのが、今考えている施設のトータルコストですよ。

**(事業課)**

それはおっしゃるとおりです。

**(構成員)**

その辺りはどこかで評価をされるのでしょうか。

**(事業課)**

支出の66億円には、イニシャルコストとランニングコストがそれぞれ入っております。3工場全てのコストを寿命で割った形で出しておりますので、ライフサイクルコストというイメージで構わないと思います。

**(構成員)**

わかりました。ありがとうございます。

**(座長)**

他はいかがでしょう。何かございますか。

**(構成員)**

ご説明いただいた内容からすると、もし既存工場を立替えず、稼働不能や廃止になってしまうと、北九州市および周辺市町村で処理不能なごみが相当量発生してしまう事態が想定される。そういう事態は許容できないものと考えますので、工場は建て替えるしかない、という結論だと思います。新しい工場の予定地は、隣接地という事ですので、伊勢神宮の式年遷宮のようなパターンで同様の工場を建て替える。現工場敷地が空き地になればさら

に30年後位になるでしょうが、そこにまた工場を建て替えるという上手いシステムが確立されているなど、感心しました。既存工場は、平成3年に出来て、平成30年位が寿命という事ですから、むしろもう少し早く検討、着工した方がより望ましかったのではないかと考えております。あとは事業費の所で、バスの中でいただいたパンフレットには総工事費約125億円とありまして、今回の新しい工場は320億円という数字が出ております。似たようなスペックと能力の工場を建てられるという事であれば、この数字のギャップというのはご説明が必要だと考えます。恐らくパンフレットには工事費の一部が書かれていて、今回のパワーポイント資料には、全体工事費の数値として書かれているのではないのかと想像しました。現時点ではまだ設計も何もしていない段階なので相当にラフな概算とは思いますが、次の評価の時点では工事費の内訳を精査した数字が必要だと思います。

(座長)

現時点でいかがでしょうか。これから詰めていく形でしょうか。

(事業課)

320億円というのは、全国的な実績を元にした処理量1トン当たりの数値がございましたので、それを元に出しております。日明工場は当時としてはかなり安くできておまして、参考までに申し上げますと、その後できた皇后崎工場は345億円、新門司工場は229億円という事で、それと比べましても日明工場の現工場はかなり安かったと思います。

(座長)

よろしいでしょうか。

(構成員)

隣接地に建て替える、という事ですが、その土地には現在、粗大ごみとかん・びんの処理施設があります。粗大ごみとかん・びんの処理機能はどこかに移設されなければならない、今回の工場建設は、他のごみ処理施設を巻き込んだドミノプロジェクトだと思います。建て替え地にある既存の2つの処理施設も上手く移設する事ができないと、工場の建て替えにゴーサインを出せないと思います。もちろん、工場での説明で、きちんとスケジュールも含めて考えておりますという話でしたので、そこも補足資料として付け加えていただければ、建て替えに着手しても大丈夫だと、私としては心象形成が強くなるかなと感じました。

(座長)

工場の建設予定地の説明がありましたが、粗大ごみの処理施設に関しては外部委託、あるいは少し離れた場所に建てるという形で考えられているという事でした。先程、委員からお話がありました、ドミノ方式というか、先にそちらを動かしておいて、後で本体の方を建設すると。そういう検討はなされてきたのでしょうか。

(事業課)

日明工場とかん・びん処理施設はほぼ同じ時期に建っておりますので、寿命もほぼ同じくらいです。かん・びん処理施設につきましては、現地で申しましたが、隣の敷地に建設予定をしておりますので、そういうスケジュールで上手くいく形ではと思っております。

(座 長)

それと、建設予定地がらみで、全く別の更地に建設するという発想はなかったのでしょうか。例えば、ひびきの辺りとかですね。土地が結構余っていると思いますが。その辺りの検討はなかったのでしょうか。

(事業課)

配置上からいいますと、既存の工場が東西にございますので、中央エリアである日明地区の中で他にないのか、という議論は当然ございました。ただ、候補地がなかったという事です。

全く別の所に建設する場合、周辺のコセンサスを得る必要がありますので、通常はどこの工場もそうですが、横に空き地を持っています。用地の左右で交互に建て替えていく余地を持っております。今回、たまたまそうではなかったのですが、工場の横にかん・びん処理施設等が建っているので、移設や、民間委託を行うなど、今後は空き地にしながら左右交互に建て替えていく。ごみ量がどうなるか分かりませんが、今の考え方としては、他の工場もそうですが、横の空き地に建て替える。真ん中に工場を運営している施設がありますが、それを挟んで左右に建て替えていくというのが一般的な考え方です。

(座 長)

他はいかがでしょうか。

(構成員)

今の件ですが、大型処理の破碎機を使った施設を民間に委託するという話を伺いました。民間にできる事は民間でお願いしたいと常々思っているところですが、選定を公正にさせていただくというのが一番大事です。1社だけにしてしまうと、公正性が無くなってしまって、それなら2社くらいでごみの処理ができるようにする方がよいのではないかと考えたりします。効率的にするなら1社でお願いするのが一番でしょうが、専従になってしまって、民間の企業らしさがなくなってしまうのではないかと懸念する所がございます。

それと、最初から遷宮のようにやっております、という話でしたが、かん・びん処理施設は少し後方に建てるという事ですので、それをどうにか日明工場と同じ場所に収める事はできないのかと思いました。また、今のごみ処理能力が600トン/日で新しい工場もそれと同じようにします、というお話だったので、工場を小さく建てて、処理能力を大きく上げるという方法を使えばどうか。使えるかどうかは分かりませんが、かんびん資源化センターを別の場所に、後方へ移すのは、効率的にどうだろうと思えます。炉の形式が現工場はストーカー炉で新門司工場はシャフト式のガス化溶解炉ですが、今回はどちらを選定されるのか。それと、深く掘ってごみを溜める量を増やす可能性もあります、というお話を伺いましたが、地盤が埋め立て地なので、どこまで可能なのかという心配があります。

(事業課)

粗大ごみの民間委託の話がございました。実施できる会社があるというのが大前提ですが、それを確認する一方で、まずは市が委託した場合とそうでない場合とどちらが得かといった検証をしようと思っております。それで委託が可能となった場合は、当然公募という形で広く募集をかけて、公平にやっていく形になるかと思っております。それと、かんびん資源化センターですが、同一の敷地の方が効率が良いのではないかというご質問がございましたが、実際の所、かん・びん処理施設と日明工場との関連性はそうございません

ので、少し敷地が離れても効率上は問題がないかと。また、敷地の制限から言いますと、今と同規模程度の工場を建てるにはギリギリになってしまいますので、かんびん資源化センターを同一敷地にとというのはかなり難しいと考えております。それから、炉の形式がどうなるのか、という事ですが、もし今回、方針が決まりましたら検討会を立ち上げまして、能力の算定や、炉の形式などを詰めていきたいと考えております。まだ決まっておりませんが、ポピュラーな所ではストーカー炉が最近多いようです。違いとしては、ストーカー炉は、階段状の炉がございまして、ごみを入れたらごみ自身の燃える力で燃えてしまいます。風は当然吹き込まないといけませんが、それで燃えてしまって灰になるという炉です。熔融炉は、ごみが炉に入りますと、コークスを更に投入します。そういう燃料を入れないといけないという特徴がございまして、その代わり、どろどろに溶かしてしまいますので、灰が出ずに、スラグとかメタルとかいうのができます。それは路盤材などに再利用できます。ですから埋め立て処分場は長持ちできますが、一長一短あります。

**(構成員)**

どちらが良いですか。

**(事業課)**

熔融炉はコークスを使うという点でかなり費用がかかりますし、CO<sub>2</sub>の発生もありますが、処分場がどうしても持てない他都市さんで使っている所があります。

灰の出る量が少なくなると埋め立てる量も少なくなるので、そういう埋立地を持たない所は熔融炉の方が良いという事になります。要は鉄の鋳炉と一緒に、溶かしてしましますが、コークス代が別にかかるので、コスト的に若干高くなります。良い面と悪い面があるので、その辺はもう一度評価して考えていかないといけない。ストーカー炉の方が良いかなという気持ちがあります。

**(座長)**

それは議論の上でという事ですね。

**(事業課)**

ごみを溜めるピットが海の近くだが、さらに深く掘れるのかという話がございました。今建っている新門司も皇后崎もかなり大きなピットを持っておりますが、いずれも海のそばでございまして、最近の土木技術であればできるのではないかというイメージを持っております。それもまた検討の中でどこまでいけるのかというのは詰めていきたいと思っております。

**(構成員)**

工場を建て替えないといけないという説明をお聞きしてどの程度の建物なのだろうかと思いながら、今回、見て回りました。そうしたらかなり酷い。あちこち鉄筋が露筋していたり、天井の鉄骨梁も曲がっていたりして、あれは建て替える時期に来ているのではないかと、今日初めて見てそう感じました。建て替えるのは賛成です。費用などの問題があるでしょうが、費用がかかるのは仕方ない事で、北九州でこの焼却施設が無くなるという事はまず考えられないと思っております。北九州ではごみの処理はきちんとなされている。日本国内で見た場合、北九州は優秀な方だと私は思っています。ですから建て替えは賛成です。それと、工場を建て替える時に、粗大ごみ資源化センターが無くなるという話があ

りました。今ある施設を解体して、そこに新しく建てるのはできない事はないですね。粗大ごみの処理は外注が良いのか、内部でやった方が良いのかは検討されると思いますが、検討して、内部でやった方が良いという話になると、敷地はあるのかなど。

**(事業課)**

そうですね。3工場とも隣に将来の建て替え用地もございますので、同じ考え方でできます。

**(構成員)**

解体で空き地が少しできるので、そこに造れば良いかなと思いました。外注というのは皇后崎の方ではどうされていますか。

**(事業課)**

皇后崎と新門司については、燃えるごみを破碎するギロチン式のを備えておりますので、ごみを破碎して直接ピットに投入するような形になっています。日明工場のみが、そういう破碎機がございませんので、隣の施設から持ってくる事になっております。ただ、今ある粗大ごみ資源化センターの特徴からいいますと、燃えない粗大ごみがございます。金属系の自転車とか家電とか。そういった物も回転式の破碎機で処理しておりますが、そういった物についてはどこの工場も持っておりませんので、その点については対応を考えないといけない。

**(構成員)**

皇后崎にはないのですね。

**(事業課)**

皇后崎には普通の燃えるごみの破碎機しかありません。

**(構成員)**

皇后崎では外注しているのですか。

**(事業課)**

金属系は全て日明1箇所です。

**(構成員)**

320億円は、決定した数字ではないと聞いておりますが、大きな事業です。ただ、現状は不確定な要素が多く、将来を見通すのはすごく難しいことですから、相当な議論をされてお示しいただいたというのは重々承知の上で、2つの意見と1つのお尋ねがあります。今までの議論とは毛色が違いますが、昔からの議論とあまり変わっていないのではないかと感じるところがありました。それと、ごみの安定処理は市民にとってすごく幸せなことであるという事についてのメッセージ性が弱いのかなと思っています。ごみの量の推計として、過去のデータや、今後の人口減少を基に、一人当たりのごみの削減率などを積み上げているという話もありましたが、過去のデータ等にとられるのではなくて、例えば工場が2つになった時に、市民に対し、ごみを1人あたりこれ位削減してください、とごみの量を決めてしまうという事も、今後は

もう少し考えられるのではないかと考えております。というのは、これまでは需要に応じて供給する、という事が一般的に考えられてきましたが、財政状況が逼迫していく中では、供給側のスペックに合わせて市民も行動を変える、というような時代が来ているのではないかと感じています。そういった方法も1つの方法として取る事ができない訳ではないですよ。けれども、そうではなくて、こちらを選択する事が市民の幸せに繋がる、という所が大切なポイントだと思っております。その上で、市民が320億円、というこれだけ大きな規模の事業をやるかやらないかという事を決めるに当たって、こういった情報等を考慮して議論もした上である、という所が必要だと思っております。今日は水道の水を用意していただいておりますが、北九州市さんは、水ビジネス、水道に関してとても成果をあげていて、広域のビジネスをするという事で、国の方にも色んな所で名前が出てくる地域です。ごみに関しても広域処理という事で、他都市と違う所もあるのかもしれませんが、政令市として担うべき役割や、北九州市として発信できる事、こういった所も考えていただければと思います。

2点目ですが、資料の最後のページにある経済性についてです。更新か廃止か、これだけで考えて良いのかなと少し疑問に思います。他都市からごみを受け入れているという事ですが、ここには処分費用しか書かれていません。最終的には埋め立てまでがごみの処分にかかる費用になります。一般廃棄物など、一般会計の中に入っていて見えにくくなっている部分もあるのかもしれませんが、埋め立てをするのにも費用がかかっています。例えば、環境への配慮とか、負荷もあるかもしれないので、そういった最終的にかかる費用まで入れる方が適切なのではないかと。他都市のごみも受け入れるという事から、なおさら感じた所です。

もし、最終処分の費用まで分かれば教えていただきたいと思います。その部分だけというのは難しいと思いますが。

#### (事業課)

他都市ごみの受け入れの話をしささせていただきますと、現在3市5町から受け入れており、処理量1トンあたり2万円いただいております。処理費用を決めるにあたっては、1トンあたりどれ位かかるのかという処理原価をベースにしていますが、そのベースになる数字が焼却処理と埋め立て処理を入れた処理費で、当時1万5千円位でした。それとプラスαいただいております。それはなぜかと言いますと、護岸工事や、道路整備が一切入っていないからです。そういうインフラ分も入れて2万円ということで、双方ご了解の上でいただいております。そういった意味で若干広くいただいております。先程、説明したように、市民に負担とならない、市に負担とならないような金額をいただいております。

#### (構成員)

支出の中に埋め立て費用は入っていない訳ですよ。収入の中ではきちんともらっているというのは理解できました。ただ、埋め立てをするには支出が必要ですから、支出に上乗せして良いのかどうかは分かりませんが、収入の中に埋め立て費用を入れているのであれば、そこを除くか、支出に上乗せするかをしなければいけない。支出ー収入が負担額になっていますから、負担額がもう少し積み上がるのではないかと考えています。他都市さんからそこまで含めてもらっているという事は理解しておりますが。

#### (座長)

差額の5千円分の中には、最終処分のコストは入っているのですか。

(事業課)

最終処分は、分かりやすく言いますと、1万5千円が原価として、焼却処理と埋め立て処理の費用が入って1万5千円です。

(座長)

入っているのですね。

(事業課)

残りの5千円分というのは周辺のインフラで、護岸工事をしたり、道路整備をしなくてはならない費用も入っています。手数料も入れて2万円かどうか、という事で他都市からいただいています。

(座長)

それは、この説明資料には反映されていますか。

(事業課)

資料の19ページで、日明工場を更新した場合の収入には入っていますが、支出にはおっしゃるとおりで入っていません。

色々なごみを処理しているので、最終処分場の支出は、工場とは別枠の計算方式をとっており、この中には入っていません。

(構成員)

十分承知していますが、別枠で考えているとはいえ、収入の中では計上している訳です。そこを一致させずに数字を出されて、本市の負担が15億円と言われておりますが、本当はもっとかかっていますよね。負担額がもう少し大きくなるはずですが、最終処分の費用がどの位かは中々分からないとは思いますが、実際に費用がかかっているのは事実です。かかっている費用に対しては収入としていただいていますので、そこはきちんと一致させないとおかしくなるのかなと思います。

(座長)

支出については計算や数字が変わってくる可能性がありますよね。

(構成員)

およそどの位なのかを把握するか、もしくは収入の部分から最終処分にかかっているとされる額を除くか何かで計算をしないとイケません。

(座長)

それと、最終処分、埋め立てについては日明工場の分だけの費用は出ますか。3つの処分場がありますよね。そこから出ている分も出ますか。

(事業課)

処分場とは埋め立ての分でしょうか。

(座 長)

そうです。これは日明の分、というふうに出ますか。

(事業課)

日明工場から出た灰の量は分かります。

(座 長)

それで計算をするという形ですね。それを加味した形で考慮すると、若干数字が変わるという事ですね。

(事業課)

支出と書いておりますのは、焼却にかかるイニシャルとランニングだけです。埋め立てのごみ処理原価というのが別にございまして、それが年間1億円です。

(構成員)

ごみの量に対して他都市の分は10%位でしたか。

(事業課)

他都市ごみについてはそうです。

(構成員)

そうすると、大きな額ではないのかもしれませんが。

(事業課)

収入から埋め立て分を引くか、埋め立て分を支出に乗せるか、どちらかになると思います。

(座 長)

恐らく、全体の結論は変わらないと思いますが。

(事業課)

数字的には大きな動きにならないとは思いますが。

(座 長)

ですが、そこは統一的に記述していただきたい。

(構成員)

一般会計はそういう所がよく見えなくなっているという事が財政的に少し問題なのかなと感じていますので、質問をさせていただいた次第です。

(座 長)

重要な指摘だと思いますので、その数字をきちんと調整していただきたいと思います。

**(構成員)**

先程から粗大ごみの民間委託のお話がありましたが、そういう業者さんというのは、それだけで十分なビジネスになるという解釈でよろしいか。何を聞いているのかというと、民間というのは営利の産業なので、営利が出れば良いのです。営利が出ないのであれば、それはインフラとして、公共事業としてやるべきだと思っています。そこで、安いから委託するという話ではなくて、ビジネスとして成立しているのか、インフラとしてやるべきか、という議論がまずあって、その中でインフラでやるならPFIとか上下分離であるとか、色々な選択肢があると思います。単純に民間で委託すれば良いという事であれば、それはビジネスとして成立しているという前提条件があると思いますが、そのあたりは今のどのように考えられていますか。

**(事業課)**

実際にはそこまで細かくは詰めていない段階です。

**(構成員)**

公共事業とは何かというと、安い、高い、だけではないと思うので、その辺りは次の検討の段階で少し考えていただきたいと思います。後は確認です。防災の話がありました。どの位の地震が起きるかは誰も分からない事ですが、ここは埋立地ですから、液状化の問題は非常に心配しないといけないと思います。地震が起きた場合、施設は対応できる設計基準になっていると思いますが、周辺の道路は大丈夫でしょうか。その施設がどれだけ頑丈でも、そこに行く道路が液状化を起こしていれば、結局は役に立たない訳で、そういう意味で防災に対しては周辺の道路の液状化対策を合わせて考えておかないと危ない。隣が民間の発電施設ですよ。九電の発電所などを含めて、この埋立地一体に色々な重要な施設が入っていると思います。この事業ではないけれど、ここが災害の際に道路ネットワークとして、あてになる道路なのかという事はとても大事な事なので、その辺りをもう一回チェックしていただければと思います。施設だけではなく、エリアとして見ないといけないという事です。

それと要望ですが、環境に関する技術はかなり良くなってきていますので、例えば、発電に使った後まだ熱を持っているもの、今回、乾燥などに使われているというものもありますが、ちょっとした温度差で発電ができるような技術も出てきています。それから、熱は温水として使う事もできるだろうし、エネルギーを持っている色々なものを最後まで使い回すというのは、北九州の売りだと思います。積極的に新しい技術を入れて、それを世界に発信できるような、そういう場所にするべきではないか。今まで通り発電もしますが、発電効率を上げる事や、まだまだ熱が残っているのであれば、もっと使い回すとか。様々な新しいシステムを取り入れて積極的に打ち出していただければと思います。これは要望です。

**(座長)**

防災につきましては、おそらく他の部署との兼ね合いもありますので、都市計画に入ってくるのかなど。ただ、声を上げないと変わらないと思いますので、それぞれの課でその辺りは調整していただければと思います。

**(事務局)**

災害を想定した基幹道路ネットワークと、啓開道路と言って真っ先に切り開きましょう

という、道路ネットワークが整備されていますので、そこでの整合性の確認をとりたいと思います。

(座長)

それと、新技術については内部評価の方でもできるだけ新しい技術を採用するようにとありましたので、ご検討をよろしくお願いします。あともう少し時間がありますが、何か言い足りないなどございましたら。

(構成員)

先程もお話がありました、北九州市のごみ工場プラス防災拠点というコンセプトは、なかなか面白いと思いますし、北九州市の独自性を出せるチャンスなのかなという気がします。現工場は置いておく訳ではなくて、取り壊してしまうわけですね。その跡地をどのように利用するのかが議論になってくるでしょうが、そこをただ防災の物資を置いておくだけにしてしまうのももったいないような気がしています。有意義な跡地の活用方法を考案すると、ユニークなプロジェクトになるのではないかと感じます。

(座長)

後はよろしいでしょうか。

(構成員)

他の委員もお話ししていましたが、北九州市はエコの町です。エコを推進するため、様々な事で頑張っている都市ですので、もし今回建て替えれば、次は30年後にしか建て替える事はできない訳ですから、30年先を見据えた技術を取り入れて、日本に今までないようなエコであって防災もきちんと整ったような、未来志向のごみ焼却場を建てていただきたいと考えております。これからのエネルギーの在りようも含めて、エコとか、公害に負けないとか、水ビジネスとか、世界に出て行くような事を目指して頑張っていますので、北九州が胸を張って見本になるような、北九州市民が「すごい焼却場ができた」と言えるようなものを建てていただきたいと感じました。

(座長)

それでは私の方から1点。連携中枢都市圏構想ですが、周辺の市町村にインフラサービスを広げていくと、その中で経済交流などを活発にしながら、都市圏全体として経済成長なり、人口増なり図っていくという流れがあると思います。先程も水ビジネスの話が出ておりましたが、私も水ビジネスといいますか、水道事業の中期経営計画の関係で座長をしておりまして、そこでは水の供給について周辺の自治体にエリアを広げてきているという現状があります。最近では宗像や、緊急的な状況においては福岡都市圏にも供給するという形で広がってきております。ごみ処理についても、おそらく周辺の自治体に対する連携というか協力関係というのが今後広がっていくのではないかと予想されます。そうした中で市内については将来的にごみの減量意識が高まるという事で、処理量はそれほど増えないだろうという設計をしていますが、エリアの拡大という点からこの容量で本当に良いのかという所があります。近隣の福岡市は人口増で、150万人を超えていますので、かなり厳しい状況であると聞いています。現在3市5町のごみを処理していますが、それを将来どこまで増やしていくのか、あるいはこれを維持していくのか、そういう方針を立てておかないといずれ戸惑う事になると思いますので、そこは現在どのように考えているのか、

お話をお願いしたいと思います。

**(事業課)**

現在3市5町です。連携中枢都市圏の枠内に入っていて、3市5町を除くと、だいたい5万トン位のごみが他にあります。ただ企業会計の水道とは違い、ごみ処理はあくまでも各都市の責務で行われているので、私どもにお願いするかどうかは各都市の判断になるかと思っています。これから日明工場の規模をどの位にするのかという話を、ここ1年くらいで決めていかなければならないと思いますが、もしその中でお話があれば、それが可能なかどうかはそこで議論されると思います。工事が始まってからだと対応が難しいですから、その時は、次の工場を建て替える時にどうするのかという検討をする事になるかと思っています。もし、連携中枢都市圏やその周辺からそういう話があれば、もちろん検討させていただきたいと考えております。今はそういう状況でございます。

**(座長)**

水道事業の場合、独立している感じがあり、多少なりとも株式会社的な発想というのがありまして、収益事業のように考えておりますので。

**(事業課)**

水を売りに行くみたいな所はありますが、ごみはどんどん燃やしますから来てください、という訳にもいきません。ただ、それぞれの都市で整備をした方が良いのか、北九州市は今のところ余裕のある中で処理をしておりますが、それなら、そちらの方が良いかと他都市も判断してくるだろうと思うし、そうした相談に乗っていきながら、できるだけ、中核都市として周りを支援していくというスタンスを今後も続けていきたい。

**(座長)**

社会全体で見れば、1箇所でスケールメリットを発揮した方が、コストは絶対に下がります。

**(事業課)**

そういうニーズはまだ他の都市でもありますので、それが固まり次第検討していきたいと思っています。

**(構成員)**

質問してよろしいですか。3市5町からのごみを処理していますが、3市は、市で独自に焼却炉を持っていないのですか。

**(事業課)**

持っていません。少し補足しますと、以前ダイオキシン問題が発生してからは、環境省は小さなごみ処理施設を推奨していません。というのは、連続して焼却できずに、1度止めてまた火を入れると、その時にダイオキシンが発生しやすいことから、環境省はそれを推奨していないので、環境省としてもできるだけ大きな、一定規模の量を焼ける焼却炉で処理して欲しいという事になっています。例えば直方市さんだと、炉を造っても連続運転ができないという事で、本市の方をお願いしたいと、そういう状況になっています。

(構成員)

建設費を少し出してくださるとか、そういう事はないのでしょうか。

(事業課)

処理単価の2万円の中に入っていますので、建設費はいただいています。処理全体の容量が増えますので、上乗せした分の費用については国からの補助金があります。

(座長)

処理費をもう少し上げて良いのでは。

(事業課)

ありがとうございます。

(座長)

時間がまいりましたので、まとめに入りたいと思います。皆様からいただいたご意見につきまして確認をとっておきたいと思います。基本的に当該事業をこの計画で進めていく事に対してご異議、ご意見などありませんでしょうか。

(異議なし)

当該事業につきましてはこの計画通り進めていくという事を前提とした上で検討会議としての意見を整理したいと思います。

多種多様な意見が出ましたが、私の方から大まかな所をまとめますと、ごみ処理量の限界が想定されるという中では、建て替えは必要であろうという認識かと思えます。また、不測の事態に至った場合、ごみがオーバーフローする可能性もありますので、建て替えは必要だろうと思えます。それから、施設そのものが老朽化しているという点でも建て替えが必要だろうという認識かと思えます。

それに加えて、いくつかのご意見が付け加えられたと思えます。

まず第1点目は、周辺施設、特に粗大ごみ処理場などの建て替えにつきましても、その事業が円滑に遂行されるように、スケジュールをきちんと組んでいただきたいという点です。

2つ目は、建て替えとなる周辺施設の機能を外部委託する場合には、公平性に気配りをお願いしたいという点です。

3点目は、従来よりごみの安定処理のために、従来、市民へごみ減量の啓発を行っていると思えますが、ごみの安定処理が市民サービスの向上に繋がるという視点を計画あるいは広報活動、そういったものの中に入れていただければという点です。

それと、防災につきましては、周辺施設、例えば道路等の一体的整備という観点もぜひ入れていただければ、という点です。

あとは細かい点で、パワーポイント資料の中の支出や収入の金額につきまして、その内訳、もしくは定義だと思えますが、これらを統一的に記述して、正確にしていきたいと思えます。

以上が本日出ていたご意見かと思えます。このご意見を公共事業評価に関する検討会議の意見としたいと思えますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

異議がないという事で、ありがとうございました。なお、具体的な記載内容につきましては、座長である私がお預かりして、事務局と調整させていただきますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

本日の会議資料、及び議事録につきましては後日、市のホームページに掲載する事になっております。議事録につきましては、私と事務局で調整させていただきたいと思っております。

それでは今後の予定につきまして、事務局の方から説明をお願いします。

(事務局)

ただいま、委員の皆様のご了承をいただきましたので、一般廃棄物処理施設整備事業につきましては、現計画の通り進めさせていただきたいと思っております。今後の予定としましては、今回の検討会議のご意見を踏まえまして、市が対応方針案を決定しまして、市民意見の募集、いわゆるパブリックコメントの手続きに入らせていただきたいと思います。

(座長)

それでは北九州市公共事業評価に関する検討会議を終了したいと思います。大変お疲れ様でした。